

世界に誇れる CT技術

第13回全国X線CT技術サミットが7月4日(土)、沖縄コンベンションセンターにて開催された(当番世話人:石風呂実氏・広島大学病院診療支援部、第一三株式会社共催、沖縄県放射線技師会・沖縄CT研究会後援、月刊インナービジョン協力)。当番世話人の石風呂実氏が中四国と九州地区(2007年まで)の担当世話人であることから、13回目にして初めて、日本最南端の地・沖縄での開催が実現した。全国各地で最先端のCT技術を直接見聞してもらうという本サミットのミッションに、また一歩近づいたことになる。2006年に発足した沖縄CT研究会(代表世話人:鳥袋真氏・豊見城中央病院)の会員が実行委員として活躍し、当日は300名近い参加者が参集して盛り上がりを見せた。また、沖縄開催ということで、石風呂氏の呼びかけで軽装が基本となり、かりゆしウェアの参加者も見受けられて南国らしい雰囲気になった。

今回のテーマは、「世界に誇れるCT技術」。日本の医療技術、特にCT検査技術は世界トップクラスの水準であり、本サミットの歴史はそれを証明していると言える。辻岡勝美代表世話人が言うところのCT仲間が集い、最前線のCT技術に触れることで、また新たな発展が期待される。

前日の3日(金)には初めての前夜祭として、「X線CT技術セミナー」が沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザにて開催された。当番世話人である石風呂氏が座長を務め、鈴木論貴氏(千葉西総合病院放射線科)が「データベースを活用した心臓CT検査法」と題して講演を行った。

4日(土)のサミット本番は、田畑浩一郎氏(沖縄県立南部医療センター・子ども医療センター)の総合司会により、午前中の「リフレッシュセミナー:CT画像の成り立ち」から開始された。このセッションは沖縄開催を機に、現状で望みうる最高の講師陣によるCTの基本を理解するための講演が5題行われた。豊富な現場経験とたゆまぬ研究活動から得られた理論や知見が報告され、初めて本サミット



会場全景



受付風景



会場風景



ポスター展示発表

に参加した人々たちにとって、またとない学びの機会になったと思われる。

協賛メーカー8社によるランチョンセミナー:メーカープレゼンテーションを挟んで、午後は、「臨床で活きる3Dボリュームデータの有用性」と題したセッションが企画された。頭部&末梢血管、Cardiac CT、腹部&整形外科、救急の4部門に分かれて、最新の臨床報告が行われた。今回のテーマにもあるように、256列、320列、2管球など最新の超多列CTを駆使した、世界をリードする日本のCT技術を改めて認識させられる発表内容であった。

* * *

次回の第14回全国X線CT技術サミットは、2010年7月24日(土)、ラフレさいたまにて、「CT造影技術—簡単そうで難しい肝臓造影検査—」をテーマに開催される。当番世話人は八町淳氏(長野赤十字病院)が務める。

総合司会



田畑浩一郎氏
(沖縄県立南部医療センター・
子ども医療センター)

全国X線CT技術サミット
代表世話人



辻岡勝美氏
(藤田保健衛生大学)

第13回当番世話人



石風呂実氏
(広島大学病院)

次回第14回当番世話人



八町淳氏
(長野赤十字病院)

◆プログラム

第13回 全国X線CT技術サミット

リフレッシュセミナー：CT画像の成り立ち

座長：宮下宗治 耳鼻咽喉科麻生病院
村上克彦 福島県立医科大学附属病院

- ・デジタル画像について (CT画像全般)
市川勝弘 金沢大学大学院
- ・CT特有のアーチファクトについて
辻岡勝美 藤田保健衛生大学
- ・ヘリカルスキャンの誕生から320列CTへの進化
井田義宏 藤田保健衛生大学病院
- ・被写体サイズにおける線量と画質
村松禎久 国立国際医療センター
- ・造影理論
八町 淳 長野赤十字病院



座長：宮下宗治氏 / 村上克彦氏



市川勝弘氏



辻岡勝美氏



井田義宏氏



村松禎久氏



八町 淳氏

臨床で生きる3Dボリュームデータの有用性

・頭部 & 末梢血管

座長：島袋 真 豊見城中央病院
平野 透 札幌医科大学附属病院
(頭部領域) 加藤光久 亀田総合病院
(末梢血管) 金城一史 豊見城中央病院



座長：島袋 真氏 / 平野 透氏



加藤光久氏



金城一史氏

・Cardiac CT

座長：池原義人 ハートライフ病院
木暮陽介 順天堂大学練馬病院
井上 健 高井病院 杉澤浩一 慶應義塾大学病院
大橋一也 名古屋市立大学病院



座長：池原義人氏 / 木暮陽介氏



井上 健氏



杉澤浩一氏



大橋一也氏

・腹部 & 整形外科

座長：小川正人 産業医科大学病院
岡田知之 公立山城病院 原田耕平 札幌医科大学附属病院
山岡秀寿 広島大学病院



座長：小川正人氏



岡田知之氏



原田耕平氏



山岡秀寿氏

・救急

座長：大沢一彰 済生会中和病院
石風呂 実 広島大学病院
山本浩之 倉敷中央病院



座長：大沢一彰氏



石風呂 実氏



山本浩之氏

前夜祭「X線CT技術セミナー」

座長：石風呂 実 広島大学病院

・データベースを活用した心臓CT検査法

鈴木諭貴 千葉西総合病院



座長：石風呂 実氏



鈴木諭貴氏

◆ 機器展示 & 一般演題発表 (ポスター)

協賛企業12社による機器展示とランチョンセミナー「メーカープレゼンテーション」が行われた。また、前回の第12回から一般演題(ポスター)の募集が始まったが、今回も31題のポスター展示が行われ、世話人と実行委員22名による審査の結果、5題(金賞1題、銀賞2題、銅賞1題、デザイン賞1題)が表彰された。

協賛企業一覧(五十音順)

株式会社AZE*, アミン株式会社*, コドニックス・リミテッド株式会社*, GEヘルスケア・ジャパン株式会社*, シーメンス旭メディテック株式会社, 東芝メディカルシステムズ株式会社*, 日本メドラッド株式会社, 株式会社根本杏林堂*, 株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン*, 株式会社日立メディコ*, 富士フイルムメディカル株式会社, メディキット株式会社*
*機器展示出展企業

●受賞ポスター

- 【金賞】「腰椎脊髓造影検査(Myelography)に代わる Fusion 画像(CTとMR Myelography)の有用性」
東京女子医科大学八千代医療センター・小池尚矢
- 【銀賞】「画像加減算を利用したノイズ加算画像作成の試み」
北九州総合病院・渡邊 亮
- 【銀賞】「Non-helical scan を用いた 頭部3D-CT Angiography (3D-CTA) の応用」
札幌医科大学附属病院・平野 透
- 【銅賞】「心臓CT撮影時の呼吸によるアーチファクトの検討」
NTT東日本札幌病院・土橋 篤
- 【デザイン賞】「320列ADCTでのCABG術後における Wide-Volume Scan の有用性」
聖マリア病院・井上真由美



機器展示風景



メーカープレゼンテーション



ポスター展示表彰式

第13回全国X線CT技術サミット開催に寄せて

●サミット沖縄上陸

2008年、今回の当番世話人に任命され自分自身2度目の当番となった。前回(第6回:2002年)はホームグラウンドである広島で開催し、地元でCT検査を頑張っている方へ大きな影響を残し大成功に終えたことは非常に喜ばしく思っている。これまでに本サミットは各地域で開催を行ってきており、全国の診療放射線技師のみならずさまに貢献できているものと信じている。

しかし、12回ほど開催してきた本サミットであるが、九州地区での開催が一度もないのが現状であった。今回はやっと南北統一(縦断)、本当の意味での“全国”という言葉が正しく使えるチャンスができた喜び、沖縄へ本サミットを上陸させる企画を考案し、2009年7月4日(土)に第13回全国X線CT技術サミットを沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開催できた。

この開催が実現できたのも、沖縄CT研究会、沖縄県放射線技師会のみならずと共催メーカーである第一三共株式会社の多大なる協力が得られたからであり、本サミットが大成功に終えたことを感謝申し上げる。

これまでの学術研究の歴史を振り返ってみると、われわれが携わっている日本の医療技術の素晴らしさ、特に、CT

検査技術は世界でトップと考えている。本サミットが世界的に注目を浴びる研究会となればと思い、全国的に著名な講師を招き、聴講者をはじめ参加者全員のCT技術の復習と発展性の双方をコラボした構成を考えた。「世界に誇れるCT技術」というメインテーマのもと、「CT画像の成り立ち」「臨床で生きる3Dボリュームデータの有用性」の二本柱とポスター発表、メーカーによるランチョンセミナーを設け、できるだけ多くの参加者が発表できるように参加型プログラムとして構成した。ポスター発表(一般演題)は31演題、メーカープレゼンテーションは8社あった。

約10時間のハードな開催であり、暑い時期に暑い地域で行うこともあり、演者、スタッフ、メーカーのすべての参加者のみなさまには上着、ネクタイの着用禁止を発令し、軽装でこのサミットにお付き合いいただいた。

最後に、今回の沖縄で開催した全国X線CT技術サミットに参加していただいたみなさまに感謝を申し上げます。

当番世話人

石風呂 実 広島大学病院診療支援部高次医用画像部門